

第2回岐阜県リニア中央新幹線活用戦略ブラッシュアップ懇談会 議事要旨

1. 日時：令和3年12月24日（金） 16：00～17：15
2. 場所：岐阜県庁4階 特別会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
涌井座長、青山委員、内田委員、加藤委員、上手委員、真田委員、
田中委員、村瀬委員、森川委員
 - (2) 県
知事、都市公園整備局長、都市公園整備局副局長、リニア推進室長、
商工労働部次長、林政部次長、地域振興課長、観光企画課長
4. 議題
 - (1) 岐阜県リニア中央新幹線活用戦略ブラッシュアップについて
5. 議事要旨

〈東美濃の森林や伝統文化を活かし、創造性あふれるまちづくり〉

- ・リニアに乗って、多くの人が岐阜県へ来訪するといった過剰な期待を持たずに、目的地として、岐阜県が選択されるまちづくりの推進に向けた取組みの検討が必要。
- ・SDGsやESGに対して非常に関心が高い、若い世代に対して訴求力を高めるような、インパクトのあるまちづくりが必要。
- ・外観は歴史的な古民家、中身はハイテク施設というように、東美濃固有の資源を活用した、他の地域では真似できない、特徴的なエリアの構築が必要。
- ・岐阜県は自然の中の「(仮称) 森の中のスタートアップ拠点」を整備し、愛知県が整備している「Station Ai」との連携を検討できないか。

〈防災や環境に配慮した安全・安心なまちづくり〉

- ・リニア開業で増えた観光収入を環境に配慮しながら、地域へ循環させる仕組

みを構築し、経済波及効果を何倍にもさせる取組みが必要。

- ・有機農業や土地に根差した農産物の生産を推進し、それを学校給食やふるさと納税の返礼品として採用するなど、公共の場での積極的な活用が重要。
- ・熱海市の盛土崩落事故を受け、リニア建設工事においても、今後、大量の発生土が生じることを見据え、安全対策に関する地元理解を促すための情報提供が課題。

〈リニア岐阜県駅及び駅周辺の「岐阜県」らしさの追求〉

- ・リニア岐阜県駅を交通のハブとするには、濃飛横断自動車道の早期整備、国道41号及び中津川市以北の国道19号の耐災性の強化が重要。
- ・リニア岐阜県駅の整備にあたっては、「高速交通アクセス」「自然の中の駅」「M a a Sへの対応」をコンセプトとし、新駅の個性化、高機能化を進めていくことが必要。
- ・リニアは、最先端の技術を結集した交通機関であることを踏まえ、リニア岐阜県駅からのアクセスについても、技術的な進歩を見据えた検討が必要。
- ・巨大IT産業は、デジタルストレスを解消するため、緑豊かな場所に本社機能を移転する実態があり、中津川市周辺の天賦の自然資源を活かし、アフターコロナ後のライフスタイルを見据えた駅づくりの推進が必要。
- ・中津川市では、今年度に駅周辺エリアデザイン指針の中間とりまとめを行う予定となっているが、引き続き、この懇談会での議論や、関係機関との調整を踏まえて、駅周辺整備を検討していくことが必要。
- ・駅周辺整備における住宅街などは、岐阜への移住・定住希望者に、どのようなライフスタイルを提供できるかを踏まえて具体的にイメージをした上で受け皿となるハード整備をすべき。
- ・デザインマネジメント、デザインコントロールは、極めて大事なブランド価値の創造につながるため、留意が必要。
- ・駅舎デザインについては、県が然るべき建築家等に、たたき台となるイメージ図を作ってもらい、この懇談会で議論できるとよい。
- ・M a a Sの導入で、リニアに乗車している間に、事業主体が異なる公共交通

機関やレンタカー、高山などの観光地の旅館まで予約できることが望ましい。

〈職の選択肢の拡大や教育環境の充実等による地域を担う人づくり〉

- ・地域に愛着を持っている女性や若者の定住を図るには、情報産業を含めた第三次産業での魅力的な仕事、職場が必要。
- ・県外へ流出した若者に、自治体が定期的に情報提供する仕組みがあれば、社会人初期段階で離職した若者に対して、Uターンを促すことが可能。